

3 緑地保全と快適な生活環境

山青く、川清き青梅。

小鳥は木々にさえずり、空気はうまい。

空は心ゆくまで晴れ、また

霧にかすむ、峰々も良し……。

平成7年の総合世論調査によると70パーセント以上の人が青梅市を住み良いまちと答えています。その理由の第一にあげているのが自然環境の良さです。一方住みにくいと答えた人は、交通の不便さや都市施設の不備を理由にあげています。そこで青梅市でも恵まれた自然環境を生かし、市民がより便利で快適な生活を送れるよう、総合長期計画を定めてバランスのとれた都市整備を進めようとしています。

主要交通であるJR青梅線の青梅駅、東青梅駅、河辺駅周辺を都市核として整備を図り、圏央道青梅インターチェンジ開設による東部の土地利用を検討し、周辺の丘陵地帯については、将来を見越して自然を多く残した住宅地や研究開発系用地として位置付けるなどが盛り込まれています。また西部、北部の自然は多くの人に親しまれるレクリエーションの場として活用しながら大切に守っていかうとしています。

多摩川をはじめ、市内を流れる川の水質を守るため、下水道を整備することなども自然保護と快適な生活の調和のために大切な仕事です。

ゾーン区分

